

なんだこの見え方は？ —錯視の不思議—

個人出展

青森県黒石市立黒石中学校 鳴海 博史

●どんなステージなの？

人はモノを見るとき「目」を使い「アタマ」で考えます。見えるはずのないモノが見えたとき、「なんだこの見え方は？」となりませんか。実は、そのモノ（絵や映像）に秘密があります。私たちのステージでは、「錯視」の現象をとおして、見え方の不思議を体験できます。

●実験のしかたとコツ

【体験のしかた】

動画やイラストを見て、どのように見えるか「錯視」を体験してみましょう。

- (1)回転する映像を 30 秒間見てから、自分の手のひらを見るとどのように見えるでしょうか（図 1）。
- (2)回転するバレリーナの映像を見つづけていると、急に回転する方向が変わって見えることがあります（図 2）。
- (3)赤いはん点のボードを 30 秒間見てから、そのあとうらの白いボードを見ます（図 3）。どのように見えるでしょうか。
- (4)2つの動物のイラストをカラーグラデーションボード上で移動させると、どのように見えるでしょうか。
- (5)左右どちらの色が濃いでしょうか。
- (6)お面があなたの顔を追いかけられるように見えます。
- (7)白黒のボードを 30 秒間見てから、そのあとまわりの壁を見ます。どのように見えるでしょうか。
- (8)たてじまのボードの前に立ち、手を筒^{つつ}にしてのぞき、片足立ちになります。

ここでボードをゆらしませ（図 4）。



図1



図2

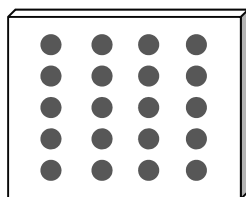


図3

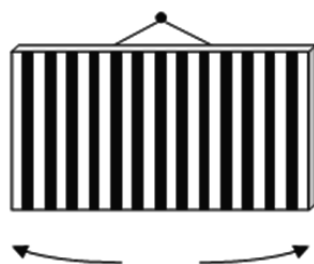


図4

●気をつけよう

実験を続けると、目と頭が疲れてしまうので注意してください。また、立って実験するときには、安全な場所で行ってください。

●もっとくわしく知るために

・北岡明佳著：「おもしろサイエンス 錯視の科学」日刊工業新聞社（2017）